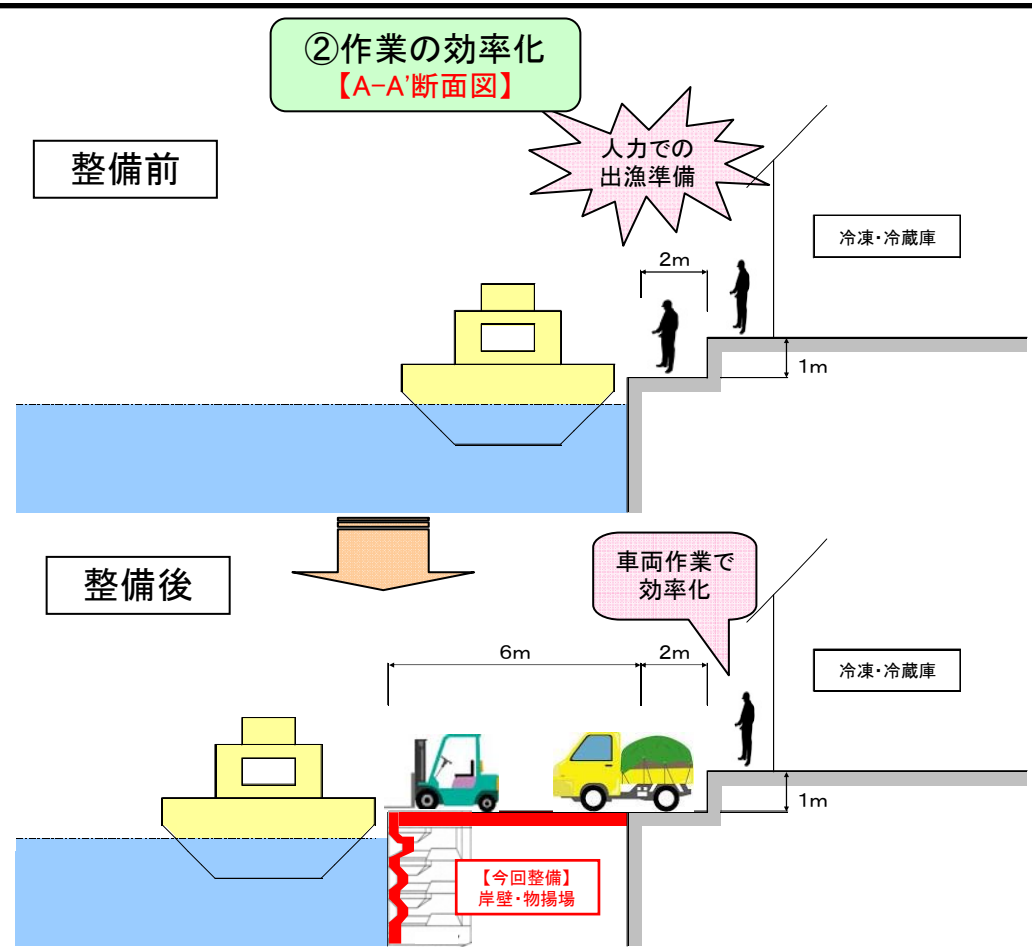
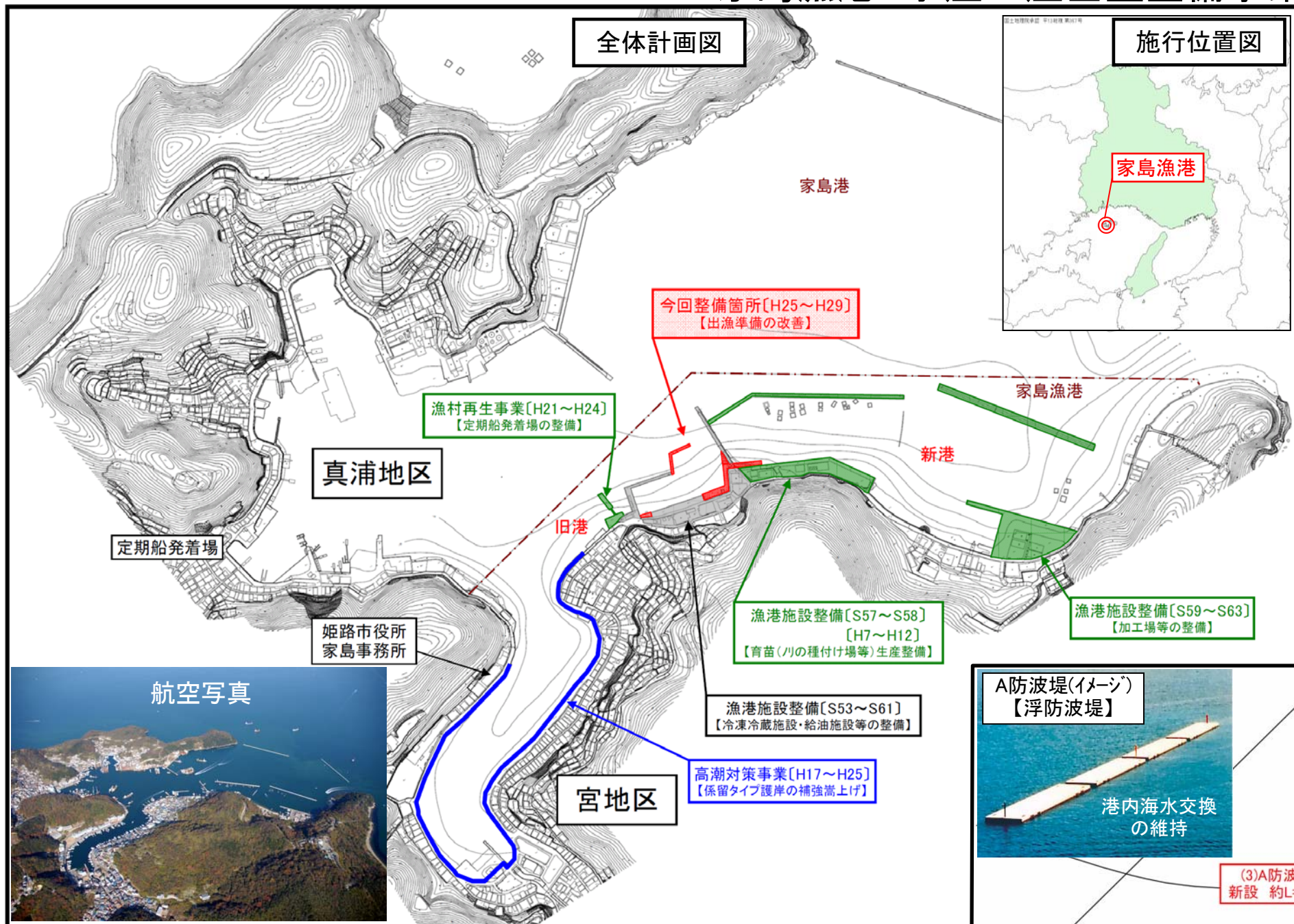


投資事業評価調書（新規）

部課室名	農政環境部 農林水産局 漁港課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	漁港課長 林健児 (計画係長 大西勝則)	内線	4172 (4177)
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	----	----------------

事業種目	漁港漁村整備	事業名	事業区間	総事業費	6.52億円	
		水産生産基盤整備事業	家島漁港	内用地補償費	億円	
所在地			事業採択 予定年度	着手予定 年 度	完成予定 年 度	
姫路市家島町			平成25年度	平成25年度	平成29年度	
事業目的			事業内容			
係留施設（岸壁・物揚場）充足率の改善と防波堤により分断されている漁港内の物流機能の向上とを図るため、旧港と新港とを繋ぐ係留施設を新たに整備して漁業活動の用に供するとともに車両輸送による作業の効率化を図り、高齢化に対応した持続可能な漁業生産活動を支援する。また、これに伴い必要とされる港内静穏度を確保するため既存防波堤の延伸も同時に実施する。			- 3m岸壁 L = 20m - 2m物揚場 L = 140m A防波堤 L = 65m 【負担割合：外郭施設 国80% 県19.5% 市0.5% 係留施設 国60% 県37.5% 市2.5%】 【事業主体：兵庫県】			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	①離島に位置する家島漁港は、その地形的制約から慢性的な係留施設の不足が漁業活動上深刻な影響を及ぼしている。 ②冷凍・冷蔵庫前面の通路幅員が約2mしかなく、そのためフォークリフトが使用できず、手で荷下ろしを行っているなど、作業効率の改善が急務となっている。 ③東防波堤により旧港と新港が分断されているため、旧港の係留施設及びノリの種網の冷凍施設等への進入は、狭隘な市道から民地を通過しなければならず、円滑な動線の確保が急務となっている。 ④係留施設の整備に伴い、静穏度を得るため防波堤の整備が必要となる。					
(2) 有効性・効率性	①旧港と新港とを繋ぐ係留施設を整備することより、(a)係留施設の確保、(b)陸上作業の動線が改善され時間短縮及び車両作業が可能となるため作業効率が向上するほか、(c)民地を車両が通過利用する状況がなくなるため、漁港管理上好ましい形態となる。 ②防波堤を整備することより港内の静穏度が確保され、船舶の修理費用の減少、作業効率の向上、更には労働環境が改善される。 【B/C = 1.21】					
(3) 環境適合性	①係留施設には、地元家島産出の石材によるマウンドと低反射式の消波構造を採用することにより、周辺で確認されている藻場の新たな形成に期待でき、水域の水質及び生態環境への影響を低減できる。 ②防波堤は、浮防波堤方式を採用することにより、海流への影響に配慮した構造とし、港内外の水質への影響も低減することとしている。					
(4) 優先性	家島漁港は、水産物陸揚量（属地、属人）や陸揚金額とも県内漁港で十指に数えられる港勢を持つ有力漁港であり、播磨圏域での水産物生産拠点として重要な役割を担っている。 今後とも地域への水産物の安定的供給を行っていくためには本事業により漁港勢力を維持・発展させることが必要不可欠である。更に本事業は、地元漁協からの強い要望を端緒にしたものであることから優先性は高い。					

家島漁港 水産生産基盤整備事業



整備の必要性【課題】

【①係船岸の不足】
離島特有の地形的制約から、慢性的に漁港の係留施設が不足している。そのため、湾奥部の防潮堤(海岸保全施設)を漁船が係留できる構造として、整備している。

【②人力での出漁準備】
冷凍・冷蔵庫前面の通路幅員が約2mしかなく、そのためフォークリフトが使用できず、手で荷下ろしを行っている。

【③狭隘な市道を利用】
これまでノ網の移動(漁業活動)は、狭隘な姫路市道を利用しており、一般県民の通行に支障をきたしている。

課題解消 ①~③

工程表（家島漁港）

	H25	H26	H27	H28	H29
調査・設計					
防波堤（新設）					
物揚場・岸壁(新設)					

B/C根拠説明資料

便益（B）の項目

事業	B（便益）	算出方法
物揚場・岸壁	① 水産物生産コスト削減便益 ○ 物揚場の整備によって利用可能な施設の延長が長くなったことに伴う、出漁前準備の作業時間が減少する便益	$\text{作業時間減少便益} = (\text{整備前作業時間} - \text{整備後作業時間}) \times \text{年間の作業人(回)数} \times \text{労務単価}$ [のり網の冷蔵庫搬入作業、漁具・資材運搬作業、冷凍庫へのエサ用イカナゴの搬入時間]
防波堤	① 水産物生産コスト削減便益 ○ 防波堤の整備によって漁港内の静穏度が確保されることに伴う、出漁前準備の作業時間が減少する便益 ○ 漁港内の静穏度が確保され、船舶の修理頻度が減少し、船舶の修理に係る費用が回避される便益	$\text{作業時間減少便益} = (\text{整備前作業時間} - \text{整備後作業時間}) \times \text{対象漁船数} \times \text{平均乗人員} \times \text{日利用回数} \times \text{年間出漁回数} \times \text{労務単価}$ [水の搬入作業、給油作業、漁具・資材搬出入作業] $\text{修理発生頻度の低減による修理費の縮減便益} = (\text{整備前の船の修理発生頻度} - \text{整備後の船の修理発生頻度}) \times 1 \text{隻当たりの修理費}$
	② 漁獲機会の増大効果便益 漁港内の静穏度が確保され、船舶の修理頻度が減少し、修理期間中に漁獲できない期間による損失が回避される便益	$\text{修理期間中の損失額} = \text{修理期間} \times (\text{整備前の船の修理発生頻度} - \text{整備後の船の修理発生頻度}) \times \text{平均乗船人数} \times \text{漁業所得の日額}$
	③ 漁業就業者の労働環境改善効果便益 ○ 防波堤の整備により、漁港内の静穏度が確保され、労働環境が改善される便益	$\text{労働環境改善便益} = (\text{整備前の作業状況の基準値} - \text{整備後の作業状況の基準値}) \times \text{年間1人当たりの労働時間} \times \text{作業人数} \times \text{労務単価}$

費用便益比（B/C）算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
				(百万円)	(百万円)	(百万円)	
物揚場・岸壁・防波堤	家島漁港 水産生産 基盤整備 事業	①水産物生産コスト削減	432	588	579	9	1.21
		②漁獲機会の増大効果	31				
		③漁業就業者の労働環境改善効果	251				
		計	714				